

12. 芦田家文書の概要と地域史料の移動

滝澤和湖

1. 芦田家文書調査

芦田家文書は京都府福知山市域に伝来した庄屋文書であり、大津市在住の所蔵者が大津市歴史博物館学芸員高橋大樹氏に同文書群に関する相談を行い、本学教員東昇が史料を借用した。同文書群の関連文書としては、1999年に刊行された「京都府域関係古文書所在情報の一整理

近世領主並びに近世村町別閲覧可能関連文書一覧一丹波編一」¹⁾内で多保市村の福知山城収集コピーとして「芦田英夫家文書」と「大槻太重家文書」が確認できる。また、多保市村の庄屋久次の「御用趣控帳」²⁾と正明寺村庄屋大槻助右衛門の「役中諸色控」³⁾は、『福知山市史』⁴⁾内で、文化4年(1807)に起こった五兵衛焼での南郷・豊富郷・金谷郷の消火・救援活動、中村・池部村両村の復旧に対する藩の援助が分かる史料であると説明されている⁵⁾。

同文書群は2021年7月に史料搬入が行われ、8月から府立大の文化情報学実習・歴史情報学演習Ⅱ等において調査が実施されている。調査参加者は東昇(教員)、竹中友里代(特任講師)、滝澤和湖(博士前期課程1回生)、正瑞千幸、長谷川巴南(以上4回生)、北原美咲、小島千幸、鈴木詩織、藤原あかり、藤村昂輝、吉富絵音(以上3回生)、1・2回生有志、学芸員実習生である。

2. 芦田家文書概要

本調査は現在、番号付与・写真撮影・目録作成を中心に行われており、箱1の撮影が終了し、箱2の撮影及び目録作成を実施している。そして写真撮影・目録作成終了後にラベル貼りを実施する予定である。

芦田家文書は3箱構成であり、箱1に一紙物、箱2に縦帳、箱3に冊子が収納されている。また調査以前から、所蔵者によって年代順による史料整理がなされた状態であったため、一部年代順による番号付与を行った。史料点数は合計404点であり、箱1・318点、箱2・53点、箱3・33点となる。史料の年代分布は、万治3年(1660)から明治5年(1872)までをグラフにしている(図1)。図1からは元禄、寛延、宝暦、明和、安永、文化期といった近世中期の文書が多いことが分かり、最も点数の多い宝暦9年(1759)は、引高帳や割付帳、検見帳など村内の田畑を把握するために作成された文書が多く占めている。そして、安永、文化期の間にある天明、寛政、享和期は先述した年代に比べると史料点数が少なく、天明期における凶作や丹州での洪水⁶⁾、庄屋の交代等当時の社会状況が影響していると考えられる。

そして、同文書群は主に福知山藩領多保市村に関するものであり、箱1からは御蔵米の請取、年貢上納等の内容が多く見受けられる。箱2は御物成納帳・割付帳・高付帳・人足帳で、箱3は「大学・中庸」、「庭訓往来」、「孟子」、「論語」といった寺子屋で使用される教本等の冊子物

が収納されている。

なお調査では、文書箱の現状記録も実施している。箱1の蓋部分に「(右) 徳(カ) 平正一物 油屋治三郎様行」と墨字があり、箱3の側面には、「(前) 永川帳 願書扣 御触書写入 惣而御用書 宗門帳」「(後) 御触書写 願書扣 永川帳扣入 宗門帳扣 惣而御用書」と書かれている。また箱の構造は、箱1と箱3はカブセ蓋、箱2は内蓋・印籠蓋、箱3の蓋表部分は碁盤の目状に墨線が引かれている。

3. 地域史料の移動

同文書群は福知山在住の継承者が途絶えたことにより、福知山から大津市に移動したものである。所蔵者の油利修氏は一度福知山市の教育委員会に相談をしたが、教育委員会では対応できなかったため、大津市歴史博物館に相談し、同館で対応する運びとなった。しかし、大津市外の史料であることから館内で調査が進まず、府立大で調査が行われることになった。同文書群の調査経緯は、以前大津市歴史博物館と調査を行った目片家文書（調査期間：2013年～2017年）が同館へ寄贈となったことを始め、すでに両者間で連携があったことが背景にある。また、調査終了後に福知山市に寄贈する方向で話が進められており、本来の所在地付近に移動する予定である。

このように、民間所在資料が本来あった場所から別の場所に移動することは珍しいことではなく、現在の史料保存において重要な課題である（以下記載を「移動する文書」とする）。この移動する文書は、明治維新や経済変動による没落、災害、官僚化、軍人化、戦争、農地解放、高度経済成長などを契機に地方から都市部に、あるいは都市部から地方に移動する際に家の文書も持参することを指す⁷⁾。しかし近年「現地保存」の重視から、芦田家文書の事例のように自治体において移動する文書を扱うことが難しい場合がある。そのため、その文書群を自治体でいかに対応していくかが史料保存における重要な課題である。

この他、移動する文書の一事例として伊予小松藩士森田家文書がある。森田家は小松藩士として勘定方・大坂屋敷関連の職を勤めていた家であり、京都府京田辺市在住の所蔵者が京田辺市の市史編さん室に相談に訪れたことにより内容が確認された⁸⁾。その後、京田辺市と市史編さんで連携する府立大に史料が運び込まれ、箱撮影といった概要調査が実施された後に小松藩が存在した愛媛県の歴史文化博物館に寄託する運びとなった。これら2つの事例から、移動する文書の問題は組織が単独で解決していくのではなく、所蔵者・自治体・大学などの様々な機関が連携して史料保存活動に取り組んでいくことが重要である。

本調査は来年度も引き続き実施予定である。調査を続けていくことにより同史料の全貌が明らかになり、福知山市域における近世農村の実態を解明することができるのではないだろうか。また、本稿は大津市歴史博物館学芸員高橋大樹氏から芦田家文書概要について話をうかがい執筆したものである。執筆協力を快く応じてくださった高橋氏に心より御礼申し上げたい。

※本報告は 2022 年 1 月に国文学研究資料館に提出した 2021 度アーカイブズカレッジ修了論文を改稿したものである。

註

- 1) 「京都府域関係古文書所在情報の一整理 近世領主並びに近世村町別閲覧可能関連文書一覧一丹波編一」(京都府立総合資料館歴史資料課編『京都府立総合資料館紀要』27)、1999 年、90 頁
- 2) 「芦田英夫家文書」(福知山市史編さん委員会編『福知山市史』3、福知山市、1984 年、1032 頁)
- 3) 『ふくち山』262～265 号、福知山史談会（前掲『福知山市史』3、1032 頁）
- 4) 前掲『福知山市史』3
- 5) 前掲『福知山市史』3、1030 頁～1039 頁
- 6) 前掲『福知山市史』3、年表、32 頁～33 頁
- 7) 西村慎太郎「文書の保存を考える」(『歴史評論』750、2012 年)、41 頁
- 8) 愛媛県歴史文化博物館編『愛媛県歴史文化博物館資料目録第 28 集 武家文書目録Ⅱ』、愛媛県歴史文化博物館、2020 年、12 頁

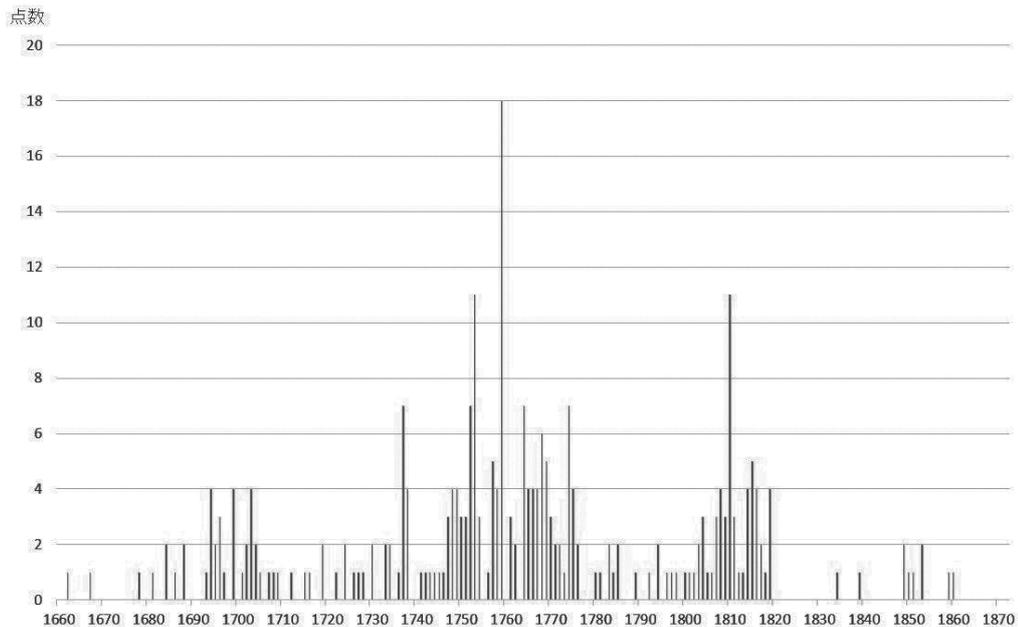


図1 芦田家文書の年代分布 (1660年～1872年)